

調べを育む

飼う

スズムシを卵から育ててみよう

土中に産み落とされた白い卵から、小さな魚のような幼虫が生まれ、やがて地表に出て黒い翅のタキシードがよく似合うスズムシになっていく。成長過程を大切に见守ってきたそのスズムシが、秋の訪れを告げるように鳴き始めるのを聞く楽しみ方は、安易にペットショップで買ってきたスズムシの音色を聞くのとは味わい深さが違うはずですよ。

スズムシのライフサイクル

自然界のスズムシは、秋田県南部を北限として日本全土、沖縄、台湾、中国、東南アジア一帯に生息しています。近年は自然原野での生息はほとんど見られませんが、人工孵化、養殖技術の向上により東北全域、北海道にまで鳴き声が聞かれます。スズムシのライフサイクルは一年です。梅雨の頃、六月初旬に孵化し、二か月間の幼虫期（この間、6〜7回の脱皮を繰り返す）を経て、立秋の頃、八月の上旬に羽化（最後の脱皮を羽化という）して成虫になります。交尾をすませたオスはだんだん衰えて死んでしまいます。一方、メスは産卵するまで旺盛な食欲で生き抜きます。産卵を終えたあとは、十月上旬頃までにはほとんど死んでしまいます。産みつけられた卵は、そのまま越冬し、翌年の孵化を待ちます。

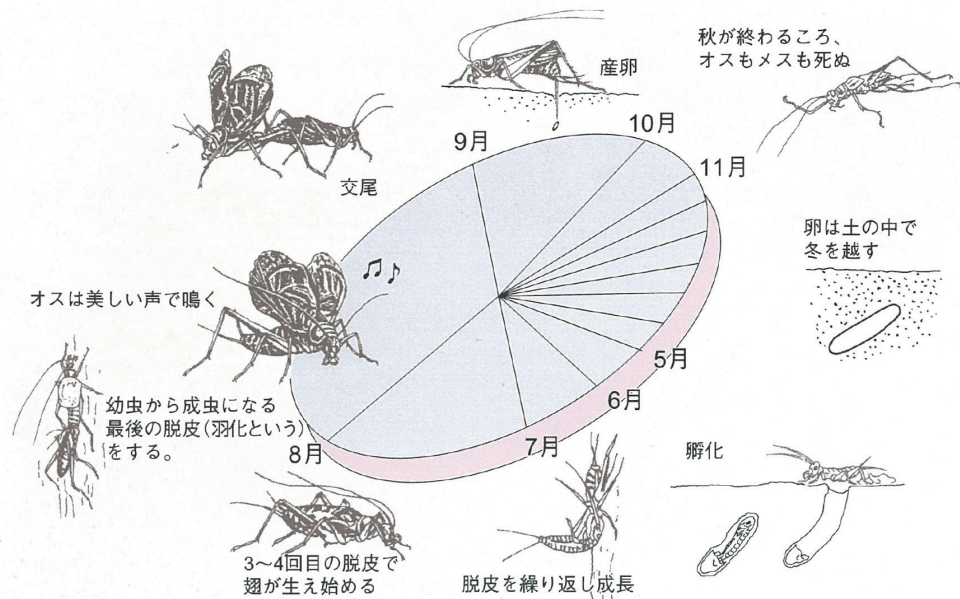
不完全変態の昆虫

蝶類やカブトムシ等の甲虫類のように、卵↓幼虫↓蛹↓成虫と変身する完全変態の昆虫に対し、スズムシは、卵↓幼虫↓成虫と蛹の形態のない不完全変態の昆虫です。



●スズムシのデータ

学名	Homoeogryllus japonicus de Haan
	直翅目 コオロギ科
体長	約15mm
産卵管	約12mm
体色	黒
触角	付け根から先が白
分布	秋田県五城目町の森林が北限とされ、本州・四国・九州・沖縄
食性	雑食性



自然界のスズムシのライフサイクル